

探訪 護国神社の森

データなどは資料「探訪 福岡縣護国神社の森 2006.9.20」参照

2006.9.20 14:00 福岡縣護国神社 大鳥居 集合 参加者25名

あいさつ 川口道子理事長
講師紹介 宮島寛 九州大学名誉教授

先生は、護国神社が練兵場であったころから現在まで植栽の変化を間近に見てこられています。この森は献木で人工的につくりあげた森で、大正に造られた明治神宮の森を多分に手本として植栽されているのではないかとのお話をされていました。(資料参照)



森の探索 ゆっくりと森を楽しみながらおよそ3つのグループがそれぞれの想いで、「これがスダジイだ」とか、「これはなんという名の木かしら」、本殿の森の上にマンションがのしかかって見える位置では、みなさんからもっとしっかり景観を考えないといけないなどの意見も出てきていました。

本殿にお参りをした後、裏の森に皆で入りましたが、ここには60年前に植えられただろろう木々がそれぞれの特徴を示していました。スギやヒノキはやせ細り、ヒノキは2日前の台風の被害を受けて地面から1mの高さから折れて倒れていました。

幹は空洞になっており、樹木というよりタンポポの茎のようにも思える状態でした。すぐ隣の楠は直径が70cm~80cmあり、大きな幹に成長しており、となりのシイの木もクスには劣るものの立派な形状をして、多くの実を落としていました。落ちたばかりのものをひろい、これを食べると箱崎宮での放生会の縁日の出店でたべるシイの実と同じに思えました。高木、低木とこのような森の林相は広葉樹林帯や照葉樹林帯の森に入り込んだときと同じ印象を持つことができました。明治神宮と同じようにそれより若い

護国神社の森も一歩中に入るとその違いを見分けることができないほどでした。福岡のこの地に、現在、代々木の森までの広大な平地林を望むことはできませんが、航空写真をみていると、実は西公園・大濠公園・護国神社・福岡市動植物園と隣接する南公園と谷や九州大学教養部(九大移転後裁判所となる?)が市民の森となれば、福岡も森の都という代名詞が似合う都市になるだろうと勝手な話をしながら探索を終了しました。表参道に見立てた、けやき通り(通称)も護国神社から赤坂を通り警固交差点まで延び、都心に緑の潤いを楽しめるスポットとして親しまれています。

日常的に楽しめる森は福岡市民の宝です。

海も、山も、川もそして森も、贅沢な住環境が気づけばたくさんあります。

(報告 須本)



探索を終えて 「皆様の感想と質問」

松原サロン・護国神社フィールドワーク

9月20日(水)午後2時

集合場所の護国神社。大鳥居前、この大鳥居は、軍艦によって運ばれてきた。(おそらく台湾のベニヒというヒノキの仲間)

護国神社の神域は、3万坪。市民の勤労奉仕等により、昭和18年に完成。戦後「平和の像」が建てられた。

制作には、広瀬不可止・小田部泰久等々地元の作家があたった。

戦後昭和23年第3回国民体育大会開催を契機に国体道路が開通。

今回の開催に付いて会の代表川口理事長から挨拶。

宮島先生から、今日の話の進め方で、スタート。

境内の参道を散策しながら、神社の森の誕生がスタート。

現在の地域は、その昔は湿地帯、薬院から六本松に抜ける道路を造り、出た土砂を埋め立てに使った。人工の土地。

神社建設の為、各市町村から、県木の苗木が献木され当時の小中学生の手で植樹された。現在常緑樹が多いのは、自然の淘汰によるもの。

= 解説あれこれ =

エノキにはヤドリギが付しやすい。

アカメガシワ 道端や空き地に最初

に入る木、成長が早い、

お盆の時に使う。送り団子を包む葉。

サルトリイバラの葉

かしわ餅(節句や、迎え団子に使用)

・・・ イヌビワ、シイ、

シャリンバイ、ゴマキ、

オガタマノキ、サカキ、

ヒサカキ、ハマヒサカキ、

・・・



樹木ひとつひとつに名前や、性質、特徴を聞きながら、歩く。
手に、台風で折れた枝などを持ち寄り、名前を先生に尋ねたり、
楽しいひととき。

今回の探訪に参加した、感想を聞く。

同じ高さに木が成長しているのは、植樹は同時期だから・・・?

60年から70年と成長の記録が判る。

樹木の成長は木周りの測定で、判らないと思った。

楠など、条件により、樹齢とは一概に言えないとおもった。

人が植えた木が、今度は、自分の子孫を残し増やしているのに感動した。

土地に合った木選びが重要。

木陰を利用、楠の若芽を見るのが好きで、散歩にきている。

街路樹を植え、樹形を整えすぎる。

街路樹は、ヒートアイランド現象の歯止めになる。

木に名札を下げたらどうか?

宮島 なかなか難しいのが現状、福岡城址に同じ問題で、木の名札を根元に釘でちょっと止めただけでも、注意された。

川口 神域なので、その行為は憚られる。

各市町村から、県木が寄贈された、この土地は、常緑広葉樹地帯。
林の中に生育している、色々の樹木の幼木は、鳥や、獣や、風でも種子が
運ばれ根を下ろす事も考えられる。

木を植えると言う事は、自分の為でなく、子孫の為に残すと言う事。

名札の例で判るように、管理者とは立場が違う。

宮島先生は、進藤市長の時代に福岡市の木選定に参加、クスとクロガネモ
チの木の2種に。花も、フヨウとサザンカの2種に。

北九州市の市の木は、イチイガシ。福岡では香椎宮にもある。

真っ直ぐに伸びる木。

大宰府天満宮のクスの木は、1000年以上と言うが現実は、そうでは無
いと思う。

森は木々の年数が違い、高い低いがありでこぼこ。

林は、同じ位の年数。

鎮守の森は、同じ位の年数を、1本杉などは東から見ても、西から見ても
同じに見える。目印、ランドタワー。

六本松は、西から、東から来る人に松の大木6本見えていたのでは？

航行方向林・目標林にしていた。

(熊本では、城から大津街道を阿蘇の方に向かって進むと1里、2里、及び
3里の所にエノキ・ムクノキなど(落葉樹)を植えた。今でも豊肥線に三里
木という駅名が残っている。

木と生活が結び付ついていた。

木の形、樹の形。

人の名、木の意味するもの。

松の木は、燃やせば火力が強く、製鉄には、欠かせない樹木。

松江の松は、スサノオの命伝説にも登場。

高松・松江・松山と松の名が付く地名が多い。瀬戸内には少雨の為か、松
が多い。

地中海気候、温暖で少雨は、オリーブ・月桂樹のような常緑樹でも硬葉樹
が多い。

(報告 川口和子)



【参考】

- ・常緑広葉樹
照葉樹・クスノキ・タブ
カシ類
- 硬葉樹・オリーブ・ウバメガシ
ゲッケイジュなど
- ・落葉広葉樹
ブナ・シラカバ・ケヤキなど